Release: September 2026

LSEG Workspace for HERE Core

インストール & コンフィギュレーションガイド

LSEG DATA & ANALYTICS

目次

Workspace for HERE Core について **3**
プラットフォームの確認 3
このガイドについて 3
対象範囲 3
詳細について 3
インストール前の作業 **4**
ドキュメントの確認 4
ホワイトリスト登録 4
デジタル証明書の抽出とインストール 4
HERE Core のデジタル証明書のエクスポート 4
期限切れの証明書 5
Entra 認証 5
ネットワークに関する考慮事項 6
通信プロトコルおよびポート 6
APIs 7
ダウンロード ロケーション **8**
Workspace のインストール **9**
LSEG Workspace インストーラーについて 9
インストール プロセス 9
ショートカット 10
Workspace のインストール 10
Workspace インストーラーを使用する場合 10
FINS プロトコルを使用する場合 11
カスタム インストール 11
仮想デスクトップインフラストラクチャ(VDI)のインストール 11
マルチ テナント 環境 11
シングル テナント環境 11
Workspace のアンインストール **12**
Microsoft Windows でのアンインストール 12
ショートカット メニューを使用する場合 12
HERE Core RVM コマンドを使用する場合 12
macOS でのアンインストール 13
Office アドインのアンインストール 13
Workspace アップグレード **14**
Workspace の構成 **15**
既定の設定 15
インストールおよび HERE Core 設定のカスタマイズ 15
desktop owner settings の有効化 15
desktop owner settings のコンフィグレーション 16
付録 A: アドイン フォルダー構造 **18**
付録 B：Windows レジストリ設定 **19**
デスクトップ オーナー定義 の設定 19

付録 C: サポート要求向けのログ収集 20
Windows 20
macOS 20
付録 D: MSI パッケージ 21
パラメーター 21
インストール コマンド 21
セキュリティ 22
MSI パッケージのアンインストール 23
付録 E: トラブルシューティング 24
Snap パッケージをダウンロードできない 24
エラー: Unable to open app 24
考えられる原因 24
トラブルシューティング手順 24
エラー: Unable to load app 25
考えられる原因 25
トラブルシューティング手順 25
エラー: We failed to download the app asset file from. 25
考えられる原因 25
トラブルシューティング手順 26
エラー:RVM failed on initialization 26
問題の解決方法 26
付録 F: 重要な HERE Core リソース 27
Desktop owner settings 27
社内 CDN での HERE Core ランタイムのホスティング 27
HERE Service Deployment Health Check 27
Process Manager 27
付録 G： ドメインのホワイトリスト登録 28

Workspace for HERE Core について

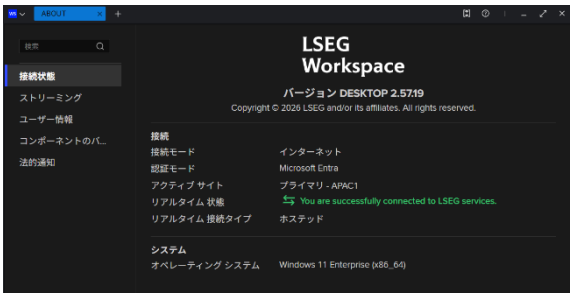
LSEG Workspace において最先端の顧客体験を実現する上で、生産性を向上させる HERE Core（旧 OpenFin）プラットフォームの技術は、当社の長期戦略の中核を担う要素となります。HERE Core は、世界の主要銀行の 90% で利用されており、3,800 社を超えるバイサイドおよびセルサイド企業に対して、3,500 を超えるデスクトップ アプリケーションを提供しています。

HERE Core 向け Workspace（以下「Workspace」）により、LSEG のお客様は以下を実現できます:

- ニーズに合わせてカスタマイズされた、豊富でインタラクティブなデスクトップ環境を構築
- HERE Core の相互運用レイヤーを利用して、自社アプリケーションを Workspace と統合
- 最小限の運用負荷で導入できるデリバリーモデルを使用
- 即時更新テクノロジーにより、常に Workspace の最新バージョンを利用

プラットフォームの確認

LSEG Workspace が HERE Core プラットフォーム上で動作しているかどうかを確認するには、「LSEG Workspace のバージョン情報」ダイアログを開いて確認します。



プラットフォーム	デスクトップ	認証
HERE Core	2.x	Microsoft Entra
ElectronJS	1.x	ForgeRock

このガイドについて

本ガイドでは、Microsoft® Windows® または Apple® macOS® 上で稼働するプラットフォームに対する IT 管理者向けインストール手順を説明します。またアプリケーションのインストールに必要な手順と、インストール後の設定およびカスタマイズについても詳しく説明しています。

対象範囲

LSEG Workspace for HERE Core インストール & コンフィギュレーション ガイドは、Workspace のインストールとメンテナンスを担当する IT スペシャリストを対象としています。

詳細について

- 製品についてのサポートが必要な場合は サポート にお問合せください。
- 追加の構成情報を確認するには Client Administration Tools を参照してください。
- Workspace の技術的な内容については Workspace technical documentation site をご覧ください。
- Workspace の技術的な内容に関するフィードバックについては DocFeedback@lseg.com までご連絡ください。

インストール前の作業

Workspace の導入前に、以下の確認作業を実施してください。

ドキュメントの確認

Workspace をインストールする前に、ハードウェアおよびソフトウェアが Workspace システム要件の HERE Core セクションに記載された要件 を満たしていることを確認してください。

⚠ Workspace バージョン 2.10 以降は、Citrix および Omnissa（旧 VMware）Horizon の両仮想化環境で動作検証が行われています。さらに 2025 年には Azure Virtual Desktop のサポートが追加されました。

ホワイトリスト登録

以下のセクションで説明する手順に従って取得したデジタル証明書を、ホワイトリストに登録する必要があります。

- LSEG Workspace
- HERE Core

詳細については 付録 G:ドメインのホワイトリスト登録 の ネットワークに関する考慮事項をご覧ください。

デジタル証明書の抽出とインストール

LSEG Workspace は、HERE Core ランタイム が提供するセキュアな環境で実行されます。詳細については Security overview を参照してください。

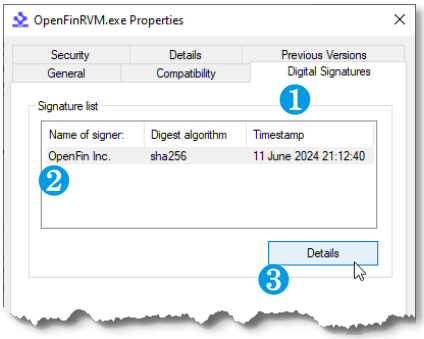
HERE Core のデジタル証明書のエクスポート

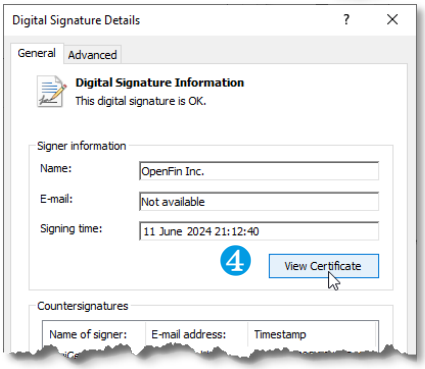
HERE Core のバイナリおよびライブラリは、DigiCert RSA CA によって署名されています。デジタル証明書を抽出し、セキュリティエージェントにインストールするには、次の手順を実行します：

1. `%LOCALAPPDATA%\OpenFin` を開きます。
2. `OpenFinRVM.exe` ファイルを右クリックし、[Properties] を選択します。

   [OpenFinRVM.exe Properties] ダイアログが表示されます（右図参照）。
3. [Digital Signatures] タブを選択します。❶
4. [Signature list] のパネルで、[OpenFin Inc.] 証明を選択し、❷ [Details] ボタンをクリックします。❸

   [Digital Signature Details] ダイアログが表示されます (右図参照)。
5. [View Certificate] ボタンをクリックします。❹



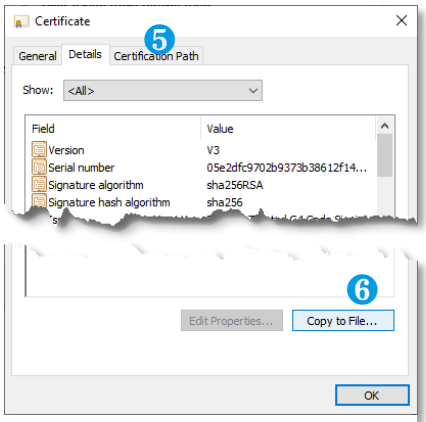


［Certificate］ダイアログが表示されます。

6. ［Details］タブを選択し、❺ ［Copy to File...］ボタンをクリックします❻。

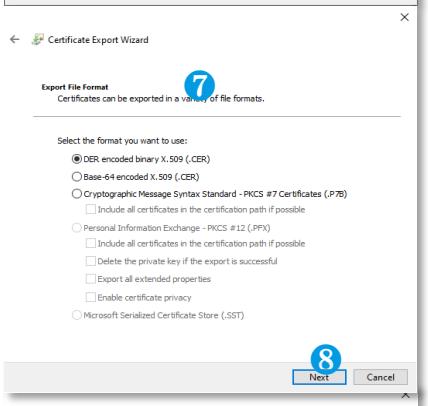
［Certificate Export Wizard］が開きます。

7. ［Next］ボタンをクリックします。



［Export File Format］パネルが表示されます (右図参照)。

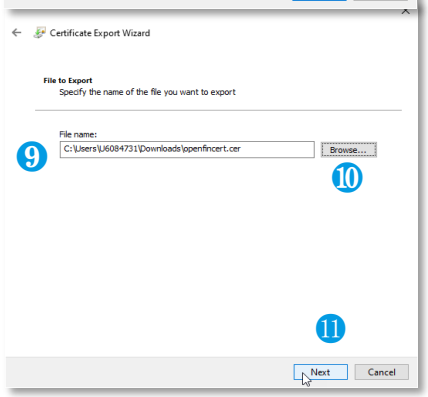
8. オプションの一覧から、証明書のエクスポートに使用するファイル形式❼ を選択します。
9. ［Next］ボタンをクリックします。❽



［File to Export］パネルが表示されます (右図参照).

10. 次のいずれかを実行します：
    a. ［File name］フィールドに ❾保存先のパスとファイル名を直接入力します。または
    b. ［Browse...］ボタンを❿ をクリックし、標準の Windows の［Save as］ダイアログで保存先を選択して、ファイル名を入力します。
11. ［Next］ボタンをクリックします ⓫.

エクスポートされた OpenFin 証明書が指定した保存先に保存されます。



期限切れの証明書

Workspace のインストール時に、使用している HERE Core runtime のデジタル証明書の有効期限が切れている場合、問題が発生する可能性があります。Microsoft AppLocker などのセキュリティツールは、期限切れの証明書を検出し、インストールを阻止することがあります。

円滑に展開を行うため、Workspace をインストールする前に、有効な HERE Core ランタイムが使用されていることを確認してください。

Entra 認証

Microsoft Entra は、ハイブリッド環境およびマルチクラウド環境全体にわたり、アプリケーション、リソース、およびデバイスへの安全なアクセスを提供する包括的なクラウドベースの ID およびアクセス管理（IAM）ソリューションです。

Workspace にサインインするには、ユーザーが組織の Entra テナントに登録されている必要があります。

詳細ついては Workspace - Entra Administrator Guide.を参照してください。

ネットワークに関する考慮事項

Workspace のドメイン要件の詳細については、以下の資料を参照してください。

- ドメインアクセス情報については HERE Core developer documentation site.
- プロダクトの変更に関するお知らせ - PCN216415 - LSEG Workspace and Entra authentication - network changes.
- 付録 E のセクション：LSEG Workspace 1.0 Installation and Configuration Guide の設定：
  - ファイナンシャル コミュニティ ネットワークおよびデリバリー ダイレクト [1]
  - コンテンツ フィルタリング ドメイン

特に Workspace for HERE Core の使用では、少なくとも以下のドメインをホワイトリストに登録 [2]する必要があります。

	コネクション		
ドメイン	インターネット	プライベート	目的
*.openfin.co	●	●	ユーザー端末から HERE サーバー上でホストされるリソースへのアクセスを可能にします。
*.refinitiv.com / *.refinitiv.net	●		ユーザー端末から Workspace 関連ドメインへのアクセスを可能にします。
*.lseg.com / *.lseg.net			
*.refinitiv.biz / *.refinitiv.net		●	
*.lseg.biz / *.lseg.net			

⚠ Workspace アプリケーション サービスは、インターネットまたはプライベート ネットワーク経由で動作できます。ただし HERE Runtime Version Manager (RVM) は、HERE コンテンツ配信ネットワーク (CDN) を介してランタイム バイナリのダウンロードやアップグレードを実行します。そのため自動ランタイム更新を利用するには、組織内でホストされる HERE Core ランタイム リポジトリを導入していない限り、HERE CDN へのインターネット アクセスが必要です。

完全に分離されたプライベート ネットワーク環境で運用しているお客様は「社内 CDN での HERE Core ランタイムのホスティング」を参照してください。

通信プロトコルおよびポート

以下のプロトコルおよびポート定義は、インターネットおよびプライベート ネットワーク接続のお客様を対象としています。

プロトコル/ポート	Workspace サービス	用途
https (TCP443)	LSEG Workspace プラットフォーム	• 管理サービス • ビューサービス • 検索およびナビゲーションサービス • タイムシリーズ サービス • トレーディング サービス • アップデート サービス • Thomson Reuters Remote Support (TRRS) • Newscasts (internet only) • FXall • FlexTrade Spark • リアルタイム データ
https (TCP443)	OpenFin servers	OpenFin services
Tcp15000	Real-Time Data	LSEGReal-Time Advanced Distribution Server
TCP/UDP53	DNS Server	ドメイン ネーム サーバーからのドメイン ネームの解決

[1] Delivery Direct のサポートは、2025 年第 1 四半期に実装される予定です。
[2] ドメインの包括的なリストについては、「付録 G:ドメインのホワイトリスト登録」を参照してください。

プライベートネットワークのお客様には、LSEG はサービス・ポートフォリオの拡充を進めており、Azure 上でホストされる新しい機能群を提供しています。これらの機能は、以下の IP アドレス範囲を通じてプライベート回線利用者に提供されます。

- 159.43.248.0/23
- 159.43.240.0/23
- 159.43.244.0/23
- 159.43.227.0/24

APIs

Workspace API では以下のコネクションを使用します:

API	コネクション	プロトコル/ポート
Desktop Data API	TBC	TBC
Side by Side API	http:\\localhost:9000\sxs\	9000

ダウンロード ロケーション

LSEG Workspace のインストールおよび実行に必要なファイルを以下の表に示します。

📌 これらの HERE Core ファイルは ZIP アーカイブとして提供されており、それぞれ HERE Core（OpenFin）プラットフォームファイルおよび OpenFinRVM.exe が含まれています。ZIP アーカイブ ファイル名は、2026 年 7 月 17 日時点の最新バージョンを反映したものであり、同日時点では正しいものです。

名前	場所	ファイル名
LSEG Workspace	https://www.lseg.com/en/data-analytics/products/workspace/download-workspace	Windows: workspace-installer.exe macOS: LSEG-Workspace-darwin-arm64.pkg
HERE Core runtime	https://developer.openfin.co/versions/?product=Runtime	43.142.104.1
HERE Core RVM	https://developer.openfin.co/versions/?product=RVM	19.0.1.3

Workspace のインストール

Workspace は、Windows または macOS[3]ならびに VDI 環境で展開できます。本セクションでは、インストール手順のみを説明します。コンフィグレーションについては「Workspace の構成」セクションを参照してください。

LSEG Workspace インストーラーについて

LSEG Workspace インストーラーは、HERE Core テクノロジーを利用して、ユーザーのデスクトップにシームレスなインストール環境を提供します。また、Workspace アプリケーションのマニフェストファイルに基づき、Workspace および HERE Core ランタイムのバージョン変更時に自動更新機能を提供します。

Workspace を展開する際は、以下のユーザー要件を考慮してください：

- インストールに管理者権限は不要です。
- インストールファイルは HERE により署名されています。
- インストーラーは、関連する Workspace アプリケーションリソースを以下のフォルダーにコピーします：
  - HERE Core コンテナー： `%localappdata%/OpenFin`
  - Microsoft Office スタンドアロンアプリ： `%localappdata%/Workspace Office`
- ユーザーには `%localappdata%` フォルダーへ書き込む権限が必要ですが、管理者権限は不要です。
- インストーラーはアプリケーション ショートカットを作成します：
  - Windows：デスクトップおよびスタートメニュー
  - macOS：Applications フォルダー
- 必要な HERE Core ランタイムのバージョンが存在しない場合は、ダウンロード処理が自動的に開始されます。

インストール プロセス

Workspace のインストールは、HERE Core インストーラーの機能を活用したシームレスなプロセスです。インストール中に、インストーラーは以下の処理を実行します：

1. cdn.openfin.co から HERE Core Runtime Version Manager (OpenFinRVM) [4]をダウンロードします。
2. OpenFinRVM を `%localappdata%\OpenFin` にインストールします。
3. Workspace マニフェストファイル `https://workspace.refinitiv.com/public/workspace/manifest.json` を読み込み、内容を取得します。
4. アプリケーション マニフェストに基づき、必要な HERE Core Runtime バージョンおよび Office アドインアセットが存在しない場合、それらをダウンロードします。
5. Office アドインについては、インストール先のコンピューターが「アドインのシステム要件」を満たしていることを確認するため、システムテストを実行します。
6. 画面に指示が表示され、インストーラーを終了するか、Workspace[5] を起動するかを選択できます。
7. LSEG Workspace および Workspace Office のショートカットをデスクトップとスタートメニューにインストールします。

---

[3] 詳細については macOS differences from HERE Core on Windows を参照してください。
[4] Workspace インストーラーには OpenFinRVM も含まれています。ただし OpenFinRVM は、OpenFin.co から直接ダウンロードすることもできます。
[5] Workspace Office スタンドアロン アドインは、それぞれの Office アプリ（Excel、PowerPoint など）からのみ起動できます。

ショートカット

既定では、サーバー上でホストされているマニフェスト ファイルにリンクする Workspace のショートカット [6] が、Windows のデスクトップおよびスタートメニュー、ならびに macOS の Applications フォルダーに作成されます。

Windows では、ショートカットのリンク先（ターゲット）は以下のとおりです。ここで `%localappdata%` は HERE Core RVM ディレクトリを表します。

ショートカット	ターゲット
LSEG Workspace	`%localappdata%\OpenFin\OpenFinRVM.exe --config=https://workspace.refinitiv.com/public/workspace/manifest.json`
LSEG Workspace Private	`%localappdata%\OpenFin\OpenFinRVM.exe --config=https://workspace.extranet.refinitiv.biz/public/workspace/manifest-private.json`
Workspace Office ファイルパッケージ	`%LOCALAPPDATA%/Workspace Office`
LSEG Workspace のアンインストール [7]	`%localappdata%\OpenFin\OpenFinRVM.exe --remove-app --config=https://workspace.refinitiv.com/public/workspace/manifest.json`
LSEG Workspace プライベートのアンインストール	`%localappdata%\OpenFin\OpenFinRVM.exe --remove-app --config=https://workspace.extranet.refinitiv.biz/public/workspace/manifest-private.json`
Workspace Office のアンインストール	`%LOCALAPPDATA%/Workspace Office/LSEGAddinInstallManager.exe --uninstall`

インストール完了後、インストーラーおよびセットアップファイルは削除され、Workspace の構成ファイル（設定ファイル）が次の場所に作成されます：

インストール モード	Workspace インストールのパス	Office add-in インストールのパス
既定値	`%localAppData%/OpenFin`	`%localAppData%/Workspace Office`
カスタム	`<Custom path>/OpenFin`	`<Custom path>/Workspace Office`

詳細について

- HERE Core インストーラーのフォルダー構成については、HERE Core インストーラー ドキュメントの Folder structure セクションを参照してください。
- Workspace Office フォルダーの構成については「付録 A: アドインフォルダー構成」を参照してください。

Workspace のインストール

以下のセクションでは、インターネットおよびプライベート接続環境の両方における、各種インストール方法を使用した標準的なインストール手順について説明します。

Workspace インストーラーを使用する場合

1. ご利用の環境に適した `workspace-installer` パッケージをダウンロードします。
2. `workspace-installer` を実行します。
3. 画面の指示に従って、 Workspace を起動します。

---

[6] デスクトップおよびスタートメニューへのショートカットの作成は、desktop-owner-settings によって管理されます。詳細については「Desktop Owner Settings のコンフィギュレーション」セクションを参照してください。

[7] macOS で Workspace をアンインストールする手順については、「Workspace のアンインストール」の「macOS でのアンインストール」のセクションを参照してください。

FINS プロトコルを使用する場合

HERE Core RVM がすでにコンピューターにインストールされている場合は、ブラウザーに以下の FINS リンクを入力して、インタラクティブなインストールを実行できます。

```
fins://workspace.refinitiv.com/public/workspace/workspace-installer.json
```

インストールが完了すると、接続タイプとして［インターネット］または［プライベート ネットワーク］を選択できます。

カスタム インストール

カスタマイズした設定 [8]を使用して Workspace をインストールするには、次の手順を実行します：

1. 希望する設定を含む desktop owner settings[9] を準備します。
2. desktop owner settings を有効にし、desktop owner settings ファイルの保存場所を Windows レジストリで指定します。
3. 次のいずれかを実行します：
   - Workspace installer の手順を実行、または
   - HERE Core RVM がすでにコンピューターにインストールされている場合は、適切な FINS リンクを実行します。 .

仮想デスクトップインフラストラクチャ(VDI)のインストール

異なる AVDI 環境に Workspace をインストールする場合は、registry または desktop owner settings を使用して、rvmInstallDirectory に対して以下の設定を適用する必要があります。

マルチ テナント 環境

マルチテナント インストールでは、複数のユーザーが同一のサーバー（VDI）またはデスクトップにログインし、同時に Workspace を利用できます。Workspace は VDI 上のすべてのユーザーがアクセスできる共有フォルダーにインストールされるよう構成する必要があります。

Workspace をユーザーのローカル プロファイル パスにインストールするには、次の手順を実行します：

1. desktop owner settings を使用して、`rvmInstallDirectory` を設定します。
   - 非永続環境（ユーザーのログオフ時に`%localappdata%` が自動的に削除される環境）の場合は、`rvmInstallDirectory` を `%APPDATA%\OpenFin` に設定します。
   - 永続環境の場合は、設定変更は不要です。Workspace は任意のディレクトリにインストールできます。
2. Workspace をインストールするには、以下の手順に従います。
   a. `OpenFinRVM.exe` ファイルを `C:\Program Files\OpenFin` に移動します。
   b. システム レベルのショートカット (public/desktop または Start menu/programs) を作成し、ターゲットとして次を指定します：`https://workspace.refinitiv.com/public/workspace/workspace-installer.json`.
   ユーザーがこのショートカットを起動すると、ショートカットはユーザー プロファイルにコピーされます。また、Localappdata が定期的に削除される環境では [10] `%appdata%`にコピーされ、その後のすべての起動で使用されます。

シングル テナント環境

シングル テナント インストールは、標準インストーラーを使用できる物理デスクトップ インストールと同じ方法で動作します。

---

[8] カスタム インストールには管理者権限が必要です。
[9] 詳細については「Desktop Owner Settings のコンフィギュレーション」セクションを参照してください。
[10] 仮想デスクトップ インフラストラクチャ (VDI) のインストールでは、この方法がよく使用されます。

Workspace のアンインストール

このセクションでは、Workspace をアンインストールする方法について説明します。個別のコンピューター上でローカルにアンインストールする方法と、マニフェスト ファイルを使用してアンインストールする方法を取り上げます。また、スタンドアロン Office アドインのアンインストール方法についても説明します。

Microsoft Windows でのアンインストール

Workspace を Microsoft Windows 環境からアンインストールするには、以下の手順に従ってください。

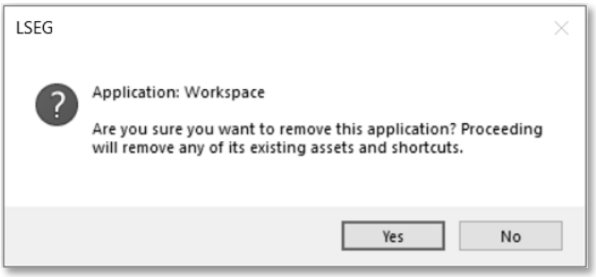
⚠ Workspace をアンインストールする前に、すべての HERE Core アプリケーションを終了してください。

ショートカット メニューを使用する場合

スタートメニューのショートカットを使用して Workspace をアンインストールするには、次の手順を実行します：

1. Windows で［スタート］> ［LSEG］>［Uninstall LSEG Workspace］を選択します。
2. 表示される確認ダイアログで［Yes］をクリックし、アンインストールを実行します。

   Workspace のショートカットおよび関連ファイルはコンピューターから削除されます。



HERE Core RVM コマンドを使用する場合

コマンドラインから Workspace をアンインストールするには、次の手順を実行します：

1. Windows で［スタート］を選択し「cmd」と入力して、コマンド プロンプト メニュー項目 [11] をクリックします。
2. Workspace のアンインストールを開始するには、以下のコマンドをコピーして実行します。

```
%LocalAppdata%\OpenFin\OpenFinRVM.exe --remove-app --
config=https://workspace.refinitiv.com/public/workspace/manifest.json
```

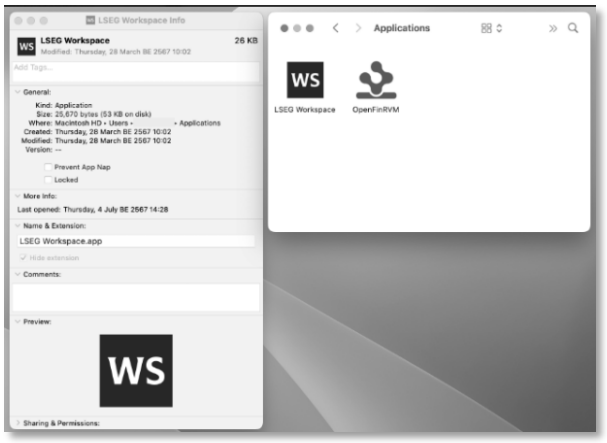
3. 表示される確認ダイアログで ［Yes］をクリックし、アンインストールを実行します。
4. Workspace のショートカットおよび関連ファイルはコンピューターから削除されます。

[11] または、［スタート］>［Windows System］>［コマンド プロンプト］を選択します。

macOS でのアンインストール

macOS を実行しているコンピューターから Workspace をアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. ~/Applications 配下の ［LSEG Workspace］フォルダーを開きます。
2. ［LSEG Workspace］アイコンを右クリックし、［ゴミ箱に移動］ を選択します。



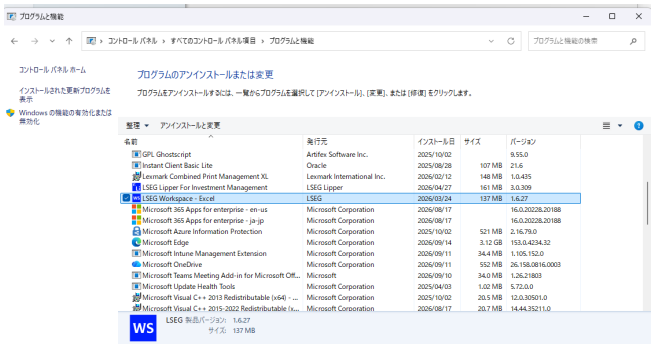
Office アドインのアンインストール

Office アドインをアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. Windows で［スタート］>［Windows システム ツール］>［コントロール パネル］を選択します。
2. ［プログラム］の下にある［プログラムのアンインストール］を選択します。
3. ［プログラムと機能］パネルで一覧をスクロールし、LSEG Workspace - Excel を選択します。
4. プログラム一覧の上にあるメニュー バーから［アンインストールと変更］を選択します。
5. 確認ダイアログで［はい］をクリックし、アンインストールを実行します。

   その後、アンインストーラーによって次の処理が実行されます：

   a. Microsoft Word、Excel、または PowerPoint が実行中でないかを確認します。
   b. すべてのアドイン関連レジストリ キーを削除します。
   c. `%LOCALAPPDATA%/Workspace Office`.内のすべてのファイルを削除します。



⚠ アンインストール中、アンインストーラーは一時的に自身を`%temp%` にコピーし、元のインストール ディレクトリからファイルを削除しながら実行を継続します。

Workspace アップグレード

Workspace は、HERE Core エコシステムの主要な特長の一つである自動更新機能を活用しています。これにより、Workspace は常に最新バージョンで実行されることが保証されます。ただし一部の組織では、エンタープライズ環境内で使用する Workspace のバージョンや、バージョンアップを実施するタイミングを管理したい場合があります。

Workspace は、ユーザーが正常にサインインした後に、シームレスなバージョン管理サービス（Version Management）を提供します。ユーザーに対して IT 管理者が特定の Workspace バージョンを割り当てていない場合、そのユーザーは最新バージョンの Workspace にサインインします。

Workspace の構成

Workspace にサインインした後、会社固有の設定が割り当てられていない場合、ユーザーは LSEG Workspace サービス [12]から 既定の Workspace 設定 を取得します。

既定の設定

既定の設定	値
接続モード	Internet
ログトレースレベル	Info
既定のストリーミングソース	IDN_RDF
ストリーミング コンフレーション レート	1500 ミリ秒

Workspace Desktop 1.0 とは異なり、HERE Core のリリースではローカル構成ファイルとの直接的な連携はできません。Workspace の設定は LSEG プラットフォーム上でサーバー側にホストされています。ただし Admin Tools を使用することで、顧客管理者または LSEG により Workspace を設定できます。詳細については Administration Tools Configuration Guide を参照してください。

Workspace Admin Tools へのアクセス権を持つ顧客管理者は、社内の個々のユーザーまたはユーザーグループに Workspace の設定を変更できます。Admin Tools へのアクセスを申請するには、LSEG アカウントチームにお問い合わせください。

インストールおよび HERE Core 設定のカスタマイズ

Windows レジストリで直接カスタム設定を定義する代わりに、HERE は desktop owner settings[13]を提供しています。 これにより、個々のコンピューターやデバイス上で HERE Core 環境をカスタマイズできます。

desktop owner settings は JSON ファイルとして定義され、通常はネットワーク上の場所に保存する必要があります。この JSON ファイルには、組織の要件や IT ポリシーに従い、ユーザー区分ごとに適用する複数の設定を定義できます。

HERE Core RVM の起動時には、次の処理が実行されます：

1. desktop owner settings のレジストリ キーを読み取り、desktop owner settings ファイルの保存場所を特定します。
2. そのファイルを解析し、ファイル内に定義された設定で同等のレジストリ設定を上書きします。

desktop owner settings の有効化

⚠ desktop owner settings を有効にするには、Windows の管理者権限が必要です。

desktop owner settings ファイルの場所を指定するために、以下のレジストリ キーを作成する必要があります。設定方法については 「付録 B: Windows レジストリ設定」を参照してください。

件名	値
パス	HKEY_CURRENT_USER\Software\OpenFin\RVM\Settings\
データタイプ	String value
Key	DesktopOwnerSettings
値の例 [14]	https://example.com/company/files/end-user-desktop-owner-settings.json

[12] リアルタイム データ製品の設定に関する詳細については、 LSEG Workspace Installation and Configuration Guide.（Workspace Desktop 版）の Appendix F を参照してください。

[13] HERE は macOS における desktop owner settings をサポートしていますが、そのサポートには一部制限があります。詳細については macOS differences from HERE Core on Windows.を参照してください。

[14] 値 は、desktop owner settings ファイルがネットワーク上のどこに保存されており、ネットワーク内のすべてのユーザーがアクセスできるかを示す例です。

desktop owner settings のコンフィグレーション

カスタム インストールで使用する desktop owner settings の JSON ファイルの例を以下に示します。

```
{
   "desktopSettings” : {
      "cleanUnusedRuntimes": true,
      "unusedRuntimeExpirationInMinutes": 43200,
       "enableDesktopShortcut": true,
       "enableStartMenuShortcut": true,
       "enableStartupShortcut": true,
       "disableShortcutCreation": false,
       "startMenuRootFolder": "CompanyName",

"deployment":{
         "runtimeCache":"C:\\custom_path\\runtime\\cache",
        "runtimeDirectory":"C:\\custom_path\\runtime",
         "rvmInstallDirectory":"C:\\custom_path\\OpenFin"
      }
"applicationLogging": {
            "maxAppLogFileSizeMB": 10000,
            "maxAppLogFiles": 10
        }
   }
}
```

プロパティ	説明	タイプ	Example Value
cleanUnusedRuntimes	インストール済みアプリケーションから参照されなくなったランタイムおよびランタイム キャッシュ フォルダーを RVM がクリーンアップするかどうかを指定します。 既定では、キャッシュ フォルダーは削除されます。	Boolean	true (既定)
unusedRuntimeExpirationInMinutes	RVM がダウンロード済みのランタイムおよび対応するランタイム キャッシュ フォルダーを削除するまでの時間 (分単位) を指定します。	integer	43,200 (30 日) (既定)
enableDesktopShortcut	アプリケーションのデスクトップ ショートカットを作成するかどうかをグローバルに指定します。 既定では、デスクトップ ショートカットが作成されます。	Boolean	true (既定)
enableStartMenuShortcut	アプリケーションの［スタート］メニュートップ ショートカットを作成するかどうかをグローバルに指定します。 既定では［スタート］メニュー ショートカットが作成されます。	Boolean	true (既定)
enableStartupShortcut	HERE Core アプリケーションのスタートアップ ショートカットを作成するかどうかをグローバルに指定します。 既定では、スタートアップトップ ショートカットが作成されます。	Boolean	true (既定)

プロパティ	説明	タイプ	Example Value
disableShortcutCreation	RVM を使用してインストールされたアプリケーションによる独自のショートカット作成を禁止するかどうかを指定します。 既定では、アプリケーションはショートカットを作成できます。	Boolean	false (既定)
startMenuRootFolder	アプリケーションの［スタート］メニュー ショートカットのルート フォルダーを指定します。 既定では、標準の［スタート］メニュー ディレクトリが使用されます。	String	“Company Name”
deployment	エンドユーザーへの展開に関連する HERE Core の動作を制御する複数のプロパティです。	Object	
runtimeCache	ランタイムがキャッシュ データを書き込む場所を指定します。アプリケーション マニフェストの設定を上書きします。	String	C:\custom_path\runtime\cache
runtimeDirectory	ランタイム バイナリ ファイルの保存場所を指定します。	String	C:\custom_path\runtime
rvmInstallDirectory	RVM バイナリ ファイルの保存場所を指定します。RVM はこの場所にコピーされます。	String	C:\custom_path\OpenFin
applicationLogging	アプリケーションによるログ ファイルの使用を制御します。詳細については、HERE Core Desktop owner settings ページの General Setting セクションを参照してください。	object	
maxAppLogFileSizeMB	アプリケーション固有のログ ファイルの最大サイズ (MB 単位) を指定します。 既定では無制限です。	integer	10000
maxAppLogFiles	アプリケーションごとのログ ファイルの最大数を指定します。 既定では無制限です。	Integer	10

付録 A: アドイン フォルダー構造

Microsoft Office 製品向けの Workspace アドイン ファイルは、次のフォルダー構造になっています。

```
└──── %LOCALAPPDATA%
    └──── Workspace Office/
        ├──── config/
        ├──── Office_x64/
        ├──── Office_x32/
        ├──── resources/
        ├──── soa-installinfo.json
        ├──── unintall.exe
        ├──── WORKSPACEOFFICE.ico
        └──── Workspace Office Installer/
            └──── {{Installer Version}}/
                └──── workspace-office-core-installer-log.log
└──── %APPDATA%/Microsoft/Windows/Start Menu/Programs/LSEG
    └──── LSEG Workspace - Excel.lnk
```

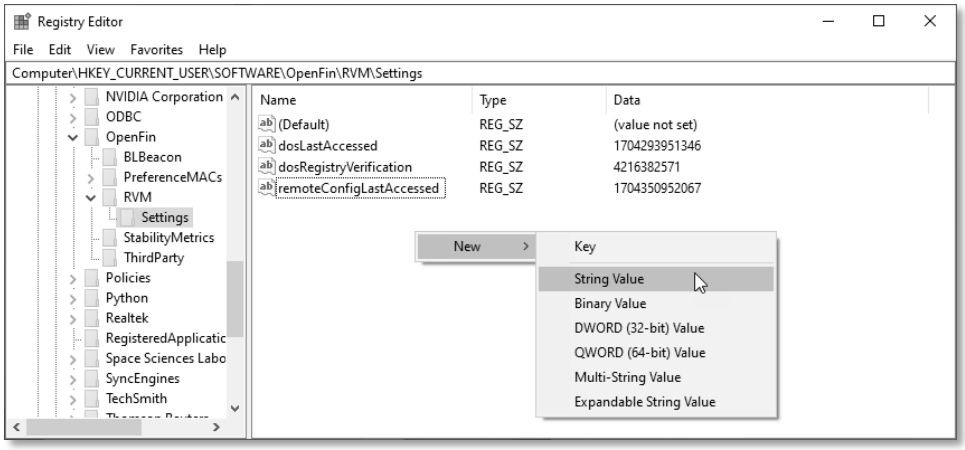
付録 B：Windows レジストリ設定

この付録では、デスクトップ オーナー設定用のレジストリ エントリを定義する手順について説明します。

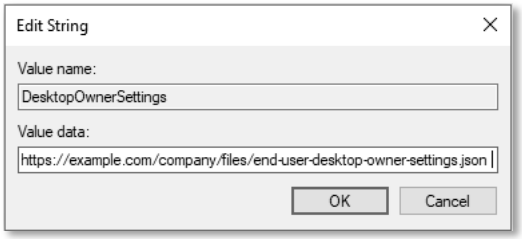
デスクトップ オーナー定義 の設定

HERE Core のデスクトップ オーナー設定用レジストリ エントリを定義するには、次の手順を実行します。

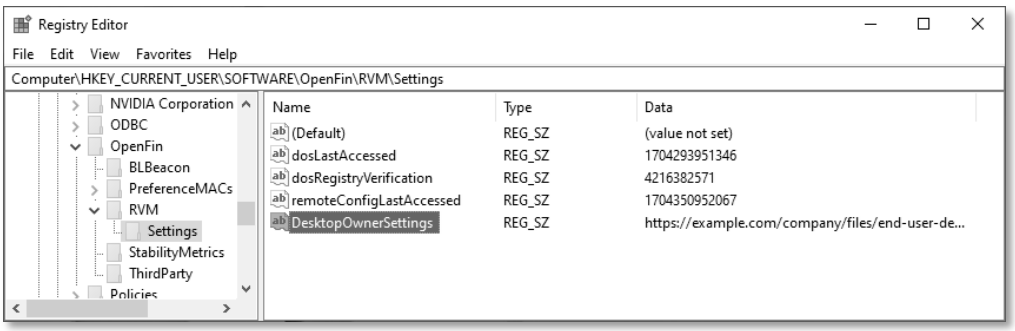
3. Windows レジストリ エディターを開きます。
   a. ［Start］を選択します。
   b. 「Reg」と入力します。
   c. ［レジストリー エディター］を選択します。
4. 次のパスを開きます： Computer > HKEY_CURRENT_USER > SOFTWARE > OpenFin > RVM\Settings.



5. 値パネル内の空いている場所を右クリックし、［新規］＞［文字列値］を選択します。
6. 名前が「DesktopOwnerSettings」の文字列値を作成します。
7. この新しい文字列値を右クリックし、コンテキストメニューから［Modify］を選択します。
8. ［Value Data］フィールドに Desktop Owner ファイルの場所を入力します。



引数および値は、「DesktopOwnerSettings」キーとして表示されます。



付録 C: サポート要求向けのログ収集

LSEG サポートからログ ファイルのコピーの提供を依頼された場合は、以下に示す場所から取得できます。

Windows

Log	Location
rvm.log	`C:/Users/[username]/AppData/Local/OpenFin/rvm/logs`
debug.log	`C:/Users/[username]/AppData/Local/OpenFin/cache/LSEG/[runtime]`
application logs	`C:/Users/[username]/AppData/Local/OpenFin/apps/LSEG Workspace/app.log` and logs in `archive` folder

macOS

Log	Location
rvm.log	`/Users/[username]/Library/Application Support/OpenFin/rvm/logs`
debug.log	`/Users/[username]/Library/Application Support/OpenFin/cache/LSEG/[runtime]`
application logs	`/Users/[username]/Library/Application Support/OpenFin/apps/LSEG Workspace/app.log` and logs in `archive` folder

付録 D: MSI パッケージ

Microsoft Installer (MSI) ファイルは、Windows でソフトウェアのインストール、保守、および削除を行うために使用されるパッケージ形式です。これらのファイルは、インストール手順を含むデータベースとして機能します。つまり MSI ファイルは実行可能ファイル (.exe) とは異なり、`msiexec.exe` サービスによって読み取られるデータ ファイルです。

パラメーター

以下のパラメーターは、インストールの種類とインストール先、および接続モードを指定するために使用されます。

パラメーター	値	説明
WSOF_RUN_FROM_PF	0	ユーザー単位のインストールです。このインストールでは、アプリケーションは %localappdata%から実行されます。
	1	コンピューター単位のインストールです。このインストールでは、アプリケーションは %ProgramW6432% から実行されます。
WSOF_PRIVATE_CONN	0	インターネット接続。
	1	プライベート ネットワーク接続
WSOF_RVMINSTDIR15	0	アプリケーションは `%ProgramW6432%` にインストールされ、アプリケーション本体は `%localappdata%` のユーザーフォルダーにコピーされます。
	1	アプリケーションは `%ProgramW6432%` にインストールされ、その場所から実行されます。 次のレジストリ文字列値が作成されます： `Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\OpenFin\RVM\Settings\Deployment; rvmInstallDirectory=%ProgramW6432%\OpenFin`

インストール コマンド

以下の表は、MSI パッケージのインストール方法 [16] のコマンド構文と、実行結果を示しています。

⚠ ユーザー単位のインストール後、Office アドインが `%localappdata%` にインストールされるようにするには、ユーザーは一度ログアウトして再度ログインする必要があります。これは Excel アドインの Active Setup 依存関係によるものです。

インストール	接続	コマンド ライン	期待される結果
コンピューター単位	インターネット	`msiexec /i "FullPathToMSI" /qb! /l*V "FullPathToLOG .log or .txt extension"` WSOF_RUN_FROM_PF=1 WSOF_RVMINSTDIR=1 WSOF_PRIVATE_CONN=0	オフィスアドインが [17] Program Files にインストールされます。 `--connectionMode=internet` が `soa-installinfo.json` に定義されます。 The LSEG Workspace のショートカットは以下のようになります。 `%ProgramData%\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs` に作成されます。 次を参照します： `"C:\Program Files\OpenFin\OpenFinRVM.exe" --config="https://workspace.refinitiv.com/public/workspace/manifest.json?$$MSI=true&$$no-shortcuts=true"`

[15] このパラメーターのレジストリ値は `WSOF_RUN_FROM_PF` が `1` に設定されている場合にのみ書き込まれます。
[16] すべてのインストールは、システム コンテキストからのみ実行する必要があります (例: SCCM、Intune、PStools など)。
[17] Excel アドインは、インストール時に対象デバイスに Microsoft Excel が存在する場合にのみインストールされます。

インストール	接続	コマンド ライン	期待される結果
	プライベート回線[18]	msiexec /i "FullPathToMSI" /qb! /l*V "FullPathToLOG .log or .txt extension" WSOF_RUN_FROM_PF=1 WSOF_RVMINSTDIR=1 WSOF_PRIVATE_CONN=1	オフィスアドインが Program Files にインストールされます。 --connectionMode=private が soa-installinfo.json に定義されます。 The LSEG Workspace のショートカットは以下のようになります。 %ProgramData%\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs に作成されます。 次を参照します： "C:\Program Files\OpenFin\OpenFinRVM.exe" --config="https://workspace.extranet.refinitiv.biz/public/workspace/manifest-private.json?$$MSI=true&$$no-shortcuts=true
ユーザー単位	インターネット	msiexec /i "FullPathToMSI" /qb! /l*V "FullPathToLOG .log or .txt extension" WSOF_RUN_FROM_PF=0 WSOF_PRIVATE_CONN=0	オフィスアドインが %localappdata% にインストールされます。 --connectionMode=internet が soa-installinfo.json に定義されます。 The LSEG Workspace のショートカットは以下のようになります。 各ユーザーの %AppData%\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs に作成されます。 次を参照します： "C:\Program Files\OpenFin\OpenFinRVM.exe" --config="https://workspace.refinitiv.com/public/workspace/manifest.json?$$MSI=true”
	プライベート回線	msiexec /i "FullPathToMSI" /qb! /l*V "FullPathToLOG .log or .txt extension" WSOF_RUN_FROM_PF=0 WSOF_PRIVATE_CONN=1	オフィスアドインが %localappdata% にインストールされます。 --connectionMode=private が soa-installinfo.json に定義されます。 The LSEG Workspace のショートカットは以下のようになります。 各ユーザーの%AppData%\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs に作成されます。 次を参照します： "https://workspace.extranet.refinitiv.biz/public/workspace/manifest-private.json?$$MSI=true”

セキュリティ

インストール時に%ProgramW6432%\OpenFin フォルダーに対して、Authenticated Users ユーザー グループに変更 (Modify) 権限が自動的に付与されます。

[18] MSI を使用したプライベート回線向けインストールでは、追加のインターネット用マニフェストもスタート メニューに配置されます。プライベート回線接続が利用できない場合にフォールバックメカニズムとして使用されます。

MSI パッケージのアンインストール

LSEG Workspace MSI パッケージ [19] をアンインストールするには、次の手順を実行します：

1. ［コントロール パネル］>［プログラム］>［プログラムと機能］で MSI インストーラーをアンインストールします。インストールの種類に応じて、次の動作が実行されます。

コンピューター単位	Workspace および Excel アドイン [20]の両方が削除されます。
ユーザー単位	Workspace のインストールのみが削除されます。 その後、［コントロール パネル］>［プログラム］>［プログラムと機能］で、［LSEG Workspace - Excel］アプリケーションを個別にアンインストールする必要があります。

2. ユーザー単位のインストールの場合のみ、［スタート］メニューから［Uninstall］を実行して、LSEG Workspace ショートカットを削除します。

⚠ MSI は HERE Core の配布メカニズムとして機能します。したがって：

- ユーザー単位：［スタート］メニューで［Uninstall LSEG Workspace］を選択して、ショートカットを削除します。
- コンピューター単位：アンインストール処理中に、［スタート］メニューに追加された［LSEG Workspace (Private)］ショートカットが削除されます。

[19] MSI のアンインストールでは、OpenFin RVM やランタイムなどの共有 HERE Core コンポーネントは削除されません。これらのコンポーネントは、デバイス上の他の HERE Core アプリケーションで使用されている可能性があるためです。

[20] アンインストール処理中に問題が発生するという可能性は低いものの、その場合は Workspace のみがアンインストールされることがあります。この場合は、同じ［プログラムと機能］の手順を使用して、［LSEG Workspace - Excel］アドインを個別にアンインストールする必要があります。

付録 E: トラブルシューティング

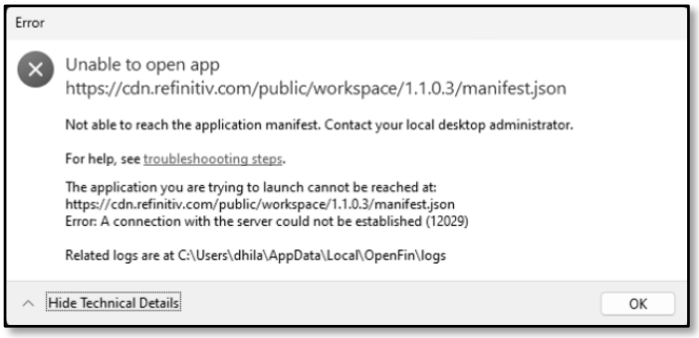
この付録では、サポート対象バージョンの Workspace における既知の問題や潜在的な問題について説明します。

Snap パッケージをダウンロードできない

HERE Core のスナップ機能では、Ctrl キーを押しながらウィンドウをドラッグすると、複数のウィンドウをスナップしてまとめて配置できます。ただし、この機能を有効にするには、次の例外設定を許可する必要があります。

- 以下のドメインから `snap.zip` アーカイブをダウンロードできるように許可します：
  - https://workspace.refinitiv.com
  - https://workspace.extranet.refinitiv.biz
- ZIP アーカイブに格納されているデジタル署名付き実行ファイル `OpenFinSnap.exe` の実行を許可します。

エラー: Unable to open app



アプリケーションの起動直後、またはアプリケーションのインストール中に、次のエラーが表示されることがあります。このエラーは、RVM がアプリケーション構成 URL にアクセスできないことを示しています。

考えられる原因

- アプリケーション構成 URL が無効です。
- アプリケーション構成をホストしているサーバーが利用できません。
- アプリケーション構成ファイルへのネットワーク パスが開放されていません。つまり、ネットワーク機器やローカル デバイス管理アプリケーションによってブロックされている可能性があります。詳細については、「ネットワークに関する考慮事項」セクションを参照してください。

トラブルシューティング手順

1. アプリケーション構成ファイルが標準的な Web ブラウザーで読み込まれることを確認します。

   エラー メッセージに表示されている URL を任意のブラウザーにコピーし、接続性およびファイル形式を確認してください。ファイル形式の例については、Appendix B: Workspace application manifest file を参照してください。

2. 構成ファイルを読み込めない場合は、アプリケーション開発元のサポート チームに連絡し次の項目を確認してください。

   a. 構成 URL が正しいこと。
   b. サーバーがオンラインで稼働していること。
   c. ローカル システムにアクセス権が付与されていること。

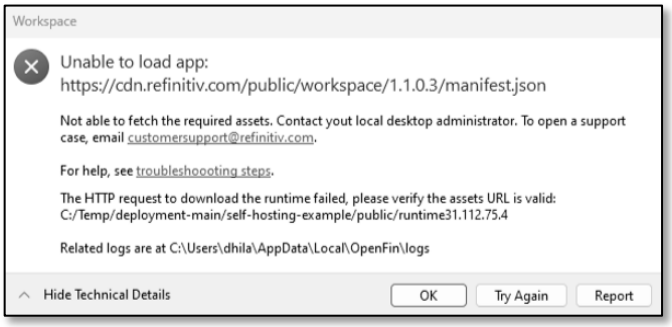
3. `%LocalAppData%\OpenFin\logs` に保存されている RVM.log ファイルを確認し、ネットワーク スタックから返されたエラーを特定します。構成ファイルに対するリクエストが記録されているはずです。

   ```
   [1234:12345]Get request for url: Application Configuration URL
   ```

   a. 上記の行に続いて記録されているエラーを検索します。角括弧内の番号が、Get request 行の番号と一致していることを確認してください。

   b. 特定したエラーについて OpenFin Support Knowledge Base を検索してください。

エラー: Unable to load app



アプリケーションの起動直後、アプリケーションのインストール中に、次のエラーが表示されることがあります。このエラーは、RVM がアプリケーション構成 URL にアクセスできないことを示しています。

考えられる原因

- アプリケーション構成 URL が無効です。
- アプリケーション構成をホストしているサーバーが利用できません。
- アプリケーション構成へのネットワーク パスが開放されていません。
- アセットのダウンロードが低速な接続によりタイムアウトする。

トラブルシューティング手順

1. アプリケーション構成ファイルが標準的な Web ブラウザーで読み込まれることを確認します。

   エラー メッセージに表示されている URL を任意のブラウザーにコピーし、接続性およびファイル形式を確認してください。

2. 構成ファイルを読み込めない場合は、アプリケーション開発元のサポート チームに連絡し次の項目を確認してください。

   a. 構成 URL が正しいこと。
   b. サーバーがオンラインで稼働していること。
   c. ローカル システムにアクセス権が付与されていること。

3. `%LocalAppData%\OpenFin\logs` に保存されている RVM.log ファイルを確認し、ネットワーク スタックから返されたエラーを特定します。構成ファイルに対するリクエストが記録されているはずです。

   ```
   [1234:12345]Get request for url: Application Configuration URL
   ```

   a. 該当行の後に記録されたエラーを検索してください。エラーを特定する際は、角括弧内の番号が Get request 行の番号と一致していることを確認します。

   b. 特定したエラーについて OpenFin Support Knowledge Base を検索してください。

エラー: We failed to download the app asset file from…

HERE Core 上で実行される一部のアプリケーションでは、機能を提供するために追加のアセットが必要です。アセットがリモート サーバー上でホストされ、アプリケーション マニフェストで宣言されている場合、アプリケーション起動時に HERE Core Runtime Version Manager (OpenFinRVM) がアセットのダウンロードを試みます。

アセットが必須として定義されており、Runtime Version Manager がそのアセットをローカル マシンにダウンロードできない場合、アプリケーションが起動に失敗することがあります。

考えられる原因

- アセット URL が無効です。
- アセットをホストしているサーバーが利用できません。
- ランタイムをホストしているサーバーへのネットワーク パスが開放されていません。

トラブルシューティング手順

1. 指定されたアセットの URL を確認し、必要なランタイムが有効であることを確認します。
   a. エラー メッセージからアセットの完全な URL をコピーし、Web ブラウザーに貼り付けます。正常な場合は、ファイルのダウンロードが開始されます。
   b. ブラウザーでファイルを正常にダウンロードできる場合は、ブラウザーのネットワーク構成とローカル システムの既定の設定を比較してください。

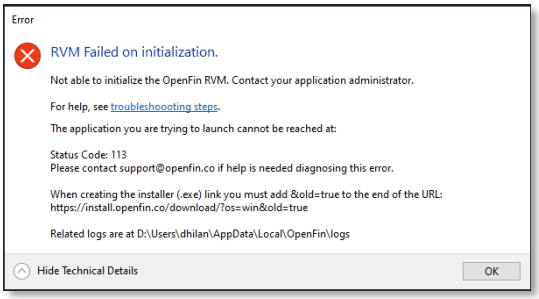
2. 上記の手順でダウンロードに失敗する場合は、次を確認してください。
   a. その URL へのネットワーク パスが開放されていることをローカル ネットワーク チームに確認してください。
   b. URL が正しいこと、およびサーバーが正常に稼働していることをアプリケーション提供元に確認してください。

3. `%LocalAppData%\OpenFin\logs` に保存されている network.log ファイルを確認し、ネットワーク スタックから返されたエラーを確認します。次のようなランタイムに対するリクエストが記録されているはずです。

   ```
   [1234:12345] We failed to download the app asset file from ....
   ```

   このエラーの直前の行には、TCP または HTTP ステータス コードなど、ネットワーク固有の情報が記録されている場合があります。これらの情報を使用して、ファイルのダウンロードに失敗した原因を特定できます。

エラー:RVM failed on initialization



この RVM ステータス コード 113 のエラーは、Windows のグループ ポリシーによって AppData\Local\Temp 内での ZIP ファイルの展開が禁止されている場合に発生します。これは Web インストーラーを使用する場合にのみ発生し、影響を受けるデスクトップは全体の 0.5% 未満です。

問題の解決方法

問題を解決するには、Web インストーラーのリンクに次のフラグを追加します：

- &old=true

例えば：

```
https://install.openfin.co/download/?os=win&config=https%3A%2F%2Fworkspace.refinitiv.com%2Fpublic%2Fworkspace%2F1.1.0.3%2Fmanifest.json&fileName=Workspace&old=true
```

付録 F: 重要な HERE Core リソース

Desktop owner settings

HERE Core のグローバル設定は、組織の IT ポリシーおよび要件に合わせてカスタマイズできます。Workspace では、カスタム インストールおよび VDI インストール向けに desktop owner settings をカスタマイズする方法が提供されています。

詳細については、Here Core ドキュメントの desktop owner settings セクションを参照してください。

社内 CDN での HERE Core ランタイムのホスティング

インターネット経由で外部サイトからバイナリ ファイルや実行可能ファイルをダウンロードすることが禁止されている IT 管理環境では、HERE Core ランタイムを社内ネットワーク上でホストすることを推奨します。これは、社内コンテンツ配信ネットワーク (CDN) を構築することで実現できます。

社内 CDN の実装手順については、Internal Hosting サンプルを参照してください。記載されている手順の実施中に不明点や問題が発生した場合は、当社までお問い合わせください。当社から HERE と連携し、サポートを提供します。

HERE Service Deployment Health Check

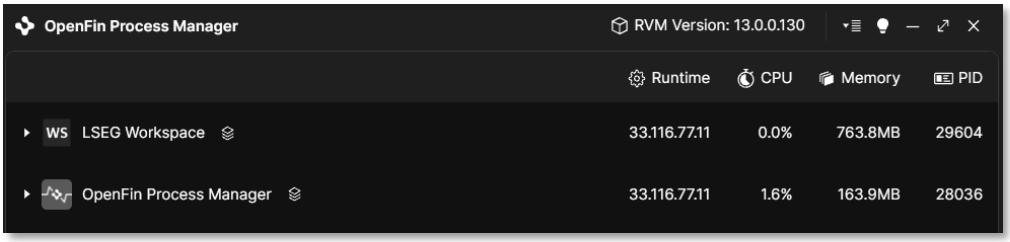
HERE では、HERE リソースへのアクセス可否を検証するための deployment health check page を提供しています。

Health Check の詳細については、 HERE Service Deployment Health Check サイトを参照してください。

Process Manager

HERE では、OpenFin プロセス向けのシステム監視ツールを提供しています。このツールでは、実行中のプロセスの一覧と、それぞれのシステム リソース使用状況を確認できます。また、Windows タスク マネージャーと同様に、プロセスを強制終了することもできます。

トラブルシューティング時に必要となる Workspace 関連情報を収集するため、ユーザーが OpenFin Process Manager をインストールすることを推奨します。



詳細については HERE Core documentation の Process Manager セクションを参照してください。

付録 G： ドメインのホワイトリスト登録

以下のドメインのリスト[21]は網羅的なものではなく、例示のみを目的としています。

DNS	Workspace サービス	Electron	HERE Core
lseg.com refinitiv.com refiitiv.net refinitiv.biz	LSEG	●	●
lseg.biz			●
openfin.co amazontrust.com	HERE Core		●
chrome.google.com	Entra Chrome Extension		●
demdex.net wistia.com privacyportal-de.onetrust.com code.jquery.com refinitiv.sc.omtrdc.net media.thoughtindustries.com forge-v5-5-0.vercel.app d36ai2hkxl16us.cloudfront.net	LSEG Learning Centre	●	●
autex.com autexnow.com	Autex	●	●
authenticator.pingone.com idpxnyl3m.pingidentity.com	Multi-factor Ping Authenticator app	●	●
bit.ly reut.rs tmsnrt.rs	Bit.ly Integration Information	●	●
trmcs-documents.s3.amazonaws.com	Central Bank Polls	●	●
cnbc.com ft.com moodys.com	Miscellaneous external content	●	●
googleapis.com	Google	●	●
virtualearth.net	Interactive Map	●	●
lipperweb.com	Lipper Market Insight	●	●
loanconnector.com	Loan Connector	●	●
loanpricing.com	Loan Pricing	●	●
depth.finance	Market Depth	●	●
cdn.mathjax.org	MathJax JavaScript display engine	●	●
storage.tr.191.itws.platts.com	News Documents	●	●
reuters.com breakingviews.com	News URL link	●	●
pi.refinitiv.com	Workspace auto-update workflow22	●	●
globalrelay.com	Workspace Messenger Complicance	●	●
salesforce.com webtrendslive.com	Refinitiv Migration Tools	●	●

[21]以下の表にリストされているドメインの多くはワイルドカード値であり、リストされているドメインの先頭または末尾にサブドメインを追加できます。

[22] インターネットおよびプライベート ネットワーク接続を介して Workspace を使用するすべてのお客様は、このドメインをホワイトリストに登録する必要があります。

DNS	Workspace サービス	Electron	HERE Core
kaltura.com	Newscasts (formerly Reuters Insider)	●	●
cxvid-livecapture.s3.amazonaws.com	Newscasts (formerly Reuters Insider): Recording Video and Images	●	●
gstatic.com apis.google.com bv-predictions2021.com cloudfront.net google-analytics.com googletagservices.com product.datastream.com themes.googleusercontent.com trust.org views.rkd.reured.com	Reuters Interactive graphics	●	●
bing.com	Search engine	●	●
media-server.com	Street Event content	●	●
comodo.com aadcdn.msftauth.net aadcdn.msauth.net sectigo.com	TLS/SSL Client Certificate (HTTPS)	●	●
tradeweb.com	Tradeweb	●	●
fxall.com[23]	Trading Service	●	●
pbs.twimg.com twitter.com	Twitter integration	●	●
wom.finance	Wealth Order Management	●	●
awsglobalaccelerator.com		●	●
avatars.stocktwits.com	Social Media Monitor	●	●
img.en25.com eloqua.com	LSEG Training	●	●
salesforceliveagent.com	Support	●	●
oneaccess.io	OneAccess	●	●
dtn.com	Weather layers in InteractiveMap app	●	●

[23] 現在 Workspace では、FXall はインターネット接続のみをサポートしています。

変更履歴

Document version	Software version	Summary of Changes
2609.01	2.57	• Added IP ranges for Private Network use • Several updates to the MSI appendix • Minor changes throughout • Added the domain whitelisting appendix
248.01	2.48	• Updated whitelisting URLs • Removed legacy node information • Corrected the debug.log URL
247.01	2.47	• Minor branding changes, including desktop identification.
244.01	2.44	• Rebranding to common LSEG template. • Added MSI packaging appendix. • Other minor changes.
216.02	2.16	• Single and Multi-Tenant configuration descriptions were reversed.
216.01		• Initial version of the LSEG Workspace for HERE Core – Installation and Configuration Guide.

© 2026 LSEG. LSEG が事前に書面で LSEG した場合を除き、LSEG が提供するコンテンツを再発行又は再配信（フレーミングその他の方法によるものを含む）することは禁止されています。LSEG は、コンテンツのエラー、中断又は遅延、あるいはコンテンツに依拠してなされた行為につき、何らの責任も負わないものとします。LSEG Data & Analytics ロゴは LSEG およびその関連会社の商標です。